

■英語の諺 701-800

★20220504 高橋伸治

701

Call a spade a spade.

日本語訳

鋤(すき)は鋤と呼べ。

日本の慣用句を活用すると、「歯に衣を着せるな。」というこよになります。

要するに、持って回った言い方ではなく、「思っていることをはっきりと言え。」という意味になります。

標記はトランプの「spade」と同じスペルで、農具の鋤(すき)が使われていま

すが、ルーツのギリシア時代の表現では、「fig」（イチジク）や「trough」（かいば桶）が使われていました。いずれにしても、何故その言葉なのかわかりません。

702

Honesty does not pay.

日本語訳

正直は割が合わない。

日本の諺としては、「正直者は馬鹿を見る。」が対応しています。

「Honesty」を含む有名な諺として、

「Honesty is the best policy.」(正直は最善の策。)があります。

正直に生きて損をするのも良しとするか、人を騙して出し抜いて得をするか、人それぞれの価値観や生き方の問題です。

同じ構造で、主語だけ代えた、「Crime does not pay.」(犯罪は割に合わない。)があります。

703

Dead men tell no lies.

日本語訳

死人は嘘を言わない。

日本の諺としては、「死人に口なし。」が対応していますが、標記より一般的に使われる、「Dead men tell no tales.」の方が、「死人に口なし。」にピッタリと言えます。

「tales」の場合には、死んでしまったことをいいことに、都合の悪いことは死人がしたことにしてしまう場合の諺です。

しかし、深く考えてみれば、「lies」の場合、どのような状況で使えるのか、私にはわかりません。

Charity is a good investment.

日本語訳

慈善は良い投資である。

日本の諺としては、「情けは人のためならず。」が対応しています。

まず、日本の諺の正しい理解ですが、「良いことをすると、回り回って自分に帰ってくる。」という意味です。

英語の他の諺として、「A good turn deserves another.」（一つの善行はもう一つ別の善行を受けるに値する。）があります。

本当は、「Virtue is its own reward.」（善行はそれ自体が報酬である。）でありたいものです。

705

Cast not the first stone.

日本語訳

最初の石を投げるな。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

標記の諺中の「the first stone」は「最初の批判や反対」の比喻です。

最初の批判は目立つし、時には賛成擁護派が反論してくることもあり、危険であるということです。

「cast」は「throw」以上に諺に登場し、有名な諺「Cast not pearls before

swine.」(豚の前に真珠を投げるな。)
にも使われています。

706

Tall trees catch much wind.

日本語訳

高い木は多くの風を受ける。

日本の諺としては、「出る杭は打たれる」
が対応します。

残念ながら、日本の文化には、才能や
努力の結果の成果に対しても、妬みか
ら攻撃する傾向があります。ですから、
「出る杭は打たれる」は広く認識され
ています。

イギリスにおいても、標記の諺のように、目立つ人は「風当たりが強い」という認識があるようです。

単数形の「A tall tree catches much wind.」も使われます。

707

Offense is the best defense.

日本語訳

攻撃は最善の防御である。

日本の諺としては、「攻撃は最大の防御である。」がありますが、標記の翻訳と思われる。

説明するまでもなく、元々は戦争における教訓として登場していますが、現在においては競技スポーツにおいても使われます。

標記より少し；格調が高い諺として、「Attack is the best form of defense.」があります。また、より平易な表現として、「The best defense is a good offense.」があります。

708

A word is enough to the wise.

日本語訳

賢者には一言で十分である。

日本の諺としては、「一を聞いて十を知る。」が対応しています。

日本の諺は、論語に、孔子の弟子同士のエピソードがあり、このことに由来しています。

標記の変化形として、「enough」の代わりに難易度の高い「sufficient」を使った、「A word is sufficient to the wise.」があります。

また、さらに上を行った、「Half a word to a wise man is enough.」（賢者には半語で充分である。）があります。

709

Black cows give white milk.

日本語訳

黒い牛が白いミルクを与える。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

表面的には、「ホルスタインのように黒と白のまだら模様なのに、また、緑の草を食べているのに、白いミルクを出す」のは不思議であるということです。要するに、世の中の様々な出来事にはすっきりした説明ができないものが多いということです。

710

Nothing is lost for asking.

日本語訳

尋ねることによって失うものはない。

日本の諺としては、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥。」が対応しています。人に何かを質問する時に気になることは、「そんなことも知らないのか？」と侮られることです。これは、洋の東西を問わないかも知れません。

別の諺として、「Better to ask the way than go astray.」（道に迷うよりは聞いてしまった方がよい。）がありますが、道案内を頼むことは恥ではないと思います。

711

The more, the merrier.

の本語訳

多ければ多いほど、より楽しい。

日本の諺を無理やり見つけると、「枯れ木も山のにぎわい。」ということになります。

もっとも、この日本の諺は、何かの集まりに参加する側が謙遜して言う言葉であり、標記の諺はむしろ主宰者側の「歓迎」の言葉と言えます。

説明するまでもなく、二つの形容詞の比較級に「the」を付けて並べると、「～であるほど、より～である。」という公式のようになっています。

712

Experience counts.

日本語訳

経験は価値がある。

日本の諺としては、「亀の甲より年の功。」が対応しています。

言うまでもなく、成功も失敗も経験した人の方が未経験者より頼りになります。

標記の諺中の「count」は、元々は「数える・計算する」ですが、ここでは「値する・価値がある」という意味で使われています。

「Experience」を含む別の諺として、「Experience is the best teacher.」

(経験が最善の教師である。) があります。
す。

713

Sleep and wait for good luck.

日本語訳

幸運を寝て待て。

日本の諺としては、「果報は寝て待て。」
が対応しています。

今か今かと気をもんで待っていても、
よい知らせは中々届かないものです。

そんな時は、泰然自若として、時には
寝てしまおうぐらいの大胆さが欲しいと

ということです。ただし、やるべきことはやってからですが。

近い意味の別の諺として、「Good things come to those who wait.」（待っている者に良いことが来る。）があります。

714

Men make houses, women make homes.

日本語訳

男は家を作り女は家庭を作る。

日本の諺としては、ピッタリなものは見当たりませんが、「夫唱婦随」や「内

助の功」に通じるものがあります。
標記の諺の成立年代は定かではありませんが、現代においてはこのような男女の役割分担が絶対とは言えないと思います。

男がハード、女が家族の在り方というソフトを担当すると解されますが、ハードに関しても「make houses」は家の間取りまでで、「make homes」で内装や家具の設えを行うと考えられます。

715

Care follows wealth.

日本語訳

心配は富に続く。

要は、「金持ちは気苦勞が続く。」という
意味であり、日本の諺としては対応
するものは見当たりません。

「Care」を含む短い諺として、「Care
killed the cat.」（心配がネコを殺し
た。）があり、心配は健康によくないと
いうことです。

因みに、「Wealth」を含む歴史的名著と
して、1776年に刊行されたイギリスの
経済学者アダム・スミス（Adam Smith）
著「the Wealth of Nations」（国富論）
があります。

A woman ' s work is never done.

日本語訳

女の仕事は決して終わらない。

日本においても、いわゆる主婦の仕事が、炊事洗濯から子育てまで際限がないことは常識ですが、諺としては対応するものは見当たりません。

標記の諺は、古くから言い伝えられた慣用句としての対句「Man may work from sun to sun. But woman' s work is never done.」（男は日が出てから沈むまで働くかも知れないが、女の仕事は終わりが無い。）の後半の部分です。

717

When old, obey your children.

日本語訳

歳をとったら、あなたの子供に従え。

日本の諺としては、「老いては子に従え。」に対応しています。

標記の諺では、男女を問わない表現ですが、日本の諺の由来である中国の古典では、女性に対する「三従の教え」と呼ばれるものであり、女性は、「父に従い、夫に従い、子に従え」という内容でした。当然、現代ではありえない考え方です。

因みに、「An obedient wife commands her husband.」（従順な妻が夫に命令す

る。) という諺もあります。

718

Beauty alone is sufficient.

日本語訳

美だけで十分である。

日本の諺には対応するものが見当たりません。生活文化の中で「美」を論じる文化がないようです。

「Beauty」は基本的には「美・美しさ」ですが、諺では「美貌・美人」として登場することが多いようです。

ただし、標記の諺に関しては、純粹な

「美」と見るべきかも知れません。
美人を誉める表現として、「Who can rival your beauty?」（誰もあなたの美しさに肩を並べることはできない。）があります

719

Clothes do not make the man.

日本語訳

服装は男を作らない。

日本の諺としては、「人は見かけによらぬもの」が意味的にはピッタリです。
少し洗練された別の諺として、「Don't

judge a book by its cover.」(本をカバーで判断するな。)があります。

一方、日本には「馬子にも衣装」、イギリスでは「Clothes make the man.」と、逆の主張をする諺があります。

外見と内面が違っていることは事実ですが、外見が内面を変えることもあるし、現実世界は複雑です。

720

An inch ahead is darkness.

日本語訳

1インチ先は暗闇である。

日本の諺としては、「一寸先は闇」が対応しています。あまりに似ているので、どちらかが元でもう一方が翻訳かも知れません。

因みに、濃い霧で先が見えないことを誇張して、「We cannot see an inch ahead.」という表現が使われます。

「未来のことはわからない。」という同じ意味のシャレた諺として、「The future is a closed book.」（未来は閉じられた本である。）があります。

721

Best is cheapest.

日本語訳

一番良いものが一番安い。

日本の諺としては、逆説的な「安物買いの銭失い。」が対応しています。標記と日本の諺の両者が前提としている考え方は、「例え値段が高いとしても、品質や機能が高くて長持ちすれば、結果的に安くつく」ということです。少し理屈っぽくなりますが、標記は「Best = cheapest」の構造ですが、数学とは違って、そのまま単純に「Cheapest = best」にはならないということが重要です。変化形として、「The best is best cheap.」があります。

722

I don't care what follows.

日本語訳

私は何が後に続くか気にしない。

日本の諺としては、「後は野となれ山となれ。」が対応しています。

この日本の諺の由来は、江戸時代の近松門左衛門の浄瑠璃の一節のようです。この一節では、「山となれ」ではなく、「大和路や」だったようです。

標記の諺は、日本の諺のように由来があるわけではなく、「自分に関係することが片付けば後はどうでもいい。」という人間の利己的な本音を単純に表現しています。

723

Go for broke.

日本語訳

文無しに行け。

日本の諺としては、「当たって砕けろ。」
が対応しています。

「broke」は「break」の過去形ですが、
「無一文の」という意味もあり、「go
for broke」で「一か八ばちかやってみ
る」という意味で使われます。

因みに、「Take a chance.」あるいは
「Take your chance.」も、「一か八か

やってみる」という意味になりますが、
標記の諺の方が、失敗するリスクが高
い感じがあります。

724

Bad news has wings.

日本語訳

悪いニュースは翼を持つ。

日本の諺としては、「悪事千里を走る。」
が対応しています。

根拠は定かではありませんが、人が良
いニュースを2人に伝えるのに対して、
悪いニュースは7人に伝えるという説
があります。

これが繰り返されるわけですから、悪いニュースが急速に広がることになります。

同じ意味のより有名な諺として、「Bad news travels fast.」がありますが、標記の諺の方が洒落ていますね。。

725

A storm in a teacup.

日本語訳

ティーカップの中の嵐。

日本の慣用句としては、「コップの中の嵐」がありますが、標記の翻訳ではないでしょうか。

要は、当事者は大騒ぎをしているけれど、傍からみるとつまらないことであるということの意味します。

元々は、19世紀から20世紀にかけて活躍したイギリスの劇作家バーナード・ショー（George Bernard Shaw,）の劇タイトル「Storm in a Teacup」とされています。

726

No man is an island.

日本語訳

誰も島ではない。

日本の諺としては、対応しているものは見当たりません。

要は、人は先祖がいて、子孫ができる、また、生きていく中で多くの人々に関りを持つ存在であるので、「孤島」のようなお存在ではないということです。

由来としては、シェークスピアの言葉とも聖書から取られたものとも言われています。

因みに、「island」には原義的に「島に似て孤立した場所」があります。

727

Seldom sick sore sick.

日本語訳

まれな病気、激しい病気。

日本の諺としては、対応するものは見当たりません。

要は、普段は丈夫で病気にならない人が、病気になると重い病気であったという経験則のようです。

「sore」は元々「痛い」という形容詞ですが、「ひどい・ 激しい」という意味にも転じ、標記の諺ではこの意味で使われています。

「When it rains, it pours.」(降れば土砂降り。)と通じるものがありますね。

728

Murder will out.

日本語訳

殺人は公になる。

日本の諺には対応するものは見当たりません。近いものとしては、「天網恢恢（てんもうかいかい）疎にして漏らさず。」でしょうか。

標記は、14 世紀のイギリスの詩人ジェフリー・チョーサー（Geoffrey Chaucer）の言葉とされています。

標記中の「out」は、ここでは動詞であり、「become public」（公になる）という意味です。

同じ構造の諺として、「Truth will out.」（真実は公になる。）があります。

We learn by teaching.

日本語訳

私たちは教えることによって学ぶ。

日本の古い諺として、「教うるは学ぶの半ば」があり、通じるものがあります。私は 1990 年当時、子どもたちに囲碁を教える過程で、私自身が級位者から有段者になった経験があります。

人に教えるためには、教えることの何倍かの知識を必要とするからだと思います。

「learn」を含む有名な諺として、「There is no royal road to learning.」（学問に王道なし。）があります。

730

Light gains make heavy purses.

日本語訳

軽い得が重たい財布を作る。

日本の諺としては、「塵も積もれば山となる。」に通じるものがあります。

「塵も積もれば山となる。」は必ずしもお金ではなく、英語の諺としては。

「Many a little makes a mickle.」（たくさんのの少しが大きなものを作る。）がピッタリです。

「light」と「purse」を含む面白い諺として、「A heavy purse makes a light

heart.」(重たい財布が軽い心を作る。)があります。

731

You can't please everyone.

日本語訳

あなたはすべての人を喜ばせられない。

日本の諺としては、「あちら立てればこちら立たず。」ということでしょうか。誰とでも上手く付き合い、憎まれずに感謝されたいものですが、相手によって価値観が違い、同じ対応ではすべての人からポジティブな反応を得ること

は不可能です。

「八方美人」(everybody's friend) という言葉がありますが、大変難しく、ネガティブな文脈で使われる言葉と言えます。

732

They die well that live well.

日本語訳

良く生きる人は良く死ぬ。

日本の慣用句に、「死にざま」という言葉がありますが、標記は、「生きざまの良い人は死にざまが良い。」ということでしょうか。

別の諺として、「All's well that ends well.」がありますが、標記はこの人生バージョンと言えます。

また、「die」を含む諺として、「Call no man happy till he dies.」（彼が死ぬまで誰も幸せとは呼ぶな。）があります。

733

Give everyone his due.

日本語訳

皆に彼の分け前を与えよ。

日本の諺としては対応するものが見当

たりません。

そもそも、「due」という言葉は短いスペルなのに、難しい言葉と言えます。形容詞としては、「～することになっている」という意味で使われ、「due date」は「締切日」という意味になります。名詞としては、「与えられるべきもの」という意味になります。別の諺として、「Give the devil his due.」（悪魔にも彼の分け前を与えよ。）があります。

734

A cat has nine lives.

日本語訳

ネコは9つの命を持つ。

日本の諺として、猫の執念深さを表現した、「猫を殺せば七代崇る。」があります。

猫は、高いところから落ちてもしなやかに着地してケガもしません。そんなところから生まれた諺と思われれます。

因みに、ネットゲームなどで、生き返る権利としての「life」が一般的に使われていますね。

一方、「Curiosity killed the cat.」（好奇心がネコを殺した。）や「Care killed the cat.」（心配がネコを殺した。）という諺もあります。

735

A cool mouth and warm feet live long.

日本語訳

冷たい口と温かい足が長く生きる。

日本の諺としては、「頭寒足熱」がピッタリです。

標記の諺は、17 世紀のイギリスの詩人 ジョージ・ハーバート (George Herbert) に由来すると言われていています。また、日本の「頭寒足熱」も標記の諺が由来という説も有力です。

口であるか頭であるかの論争は兎も角、大きな筋肉がある足から体全体の体温を上げることによって免疫力を高めることは理にかなっていると言えます。

736

Life is a span.

日本語訳

人生は短い時間である。

日本の諺としては、中国唐時代に生れた故事成語である「一炊の夢」が対応しています。

標記の諺中の「span」という言葉は、「範囲」として知られていますが、元々は手を広げた際の「親指と小指の間の距離」のことであり、そこから「短い時間」の意味を持つようになりました。

因みに、人生の短さに関する有名な諺として、「Art is long life is short.」があります。

737

Wonders never cease!

日本語訳

驚きは決して止まらない。

日本の諺としては、茶化している感もありますが、「驚き桃の木山椒の木」に通じるものがあります。

標記の諺は文字通りに解釈すれば、「非常に驚いている。」という意味になります。

す。しかし、状況や言い方によっては茶化しているような印象も与えてしまいます。

変化形として、「Wonders will never cease.」がありますが、標記とはニュアンスが違ってきます。

738

A carpenter is known by his chips.

日本語訳

大工は彼の削りかすで分かる。

日本でも、大工の名人はカンナの削りかすで腕前がわかることはよく知られ

ていることですが、諺としては見当たりません。

因みに、「carpenter」は現在は「大工」ですが、元々は「馬車を作る人」でした。

「known by」を含む諺として、「A tree is known by its fruit.」(木はその実によりて知られる。)、あるいは、「A man is known by the company he keeps.」(人は保持している友によって知られる。)があります。

739

Love is sweet in the beginning but sour in the ending.

日本語訳

恋は始まりは甘く、終わりは酸っぱい。 .

日本の諺には対応するものは見当たりません。

「love」に関する諺は数多くありますが、概ね、その強さを表現したものであり、標記のような感慨深いものは珍しいと言えます。

「beginning」を含む諺として、「Everything has a beginning.」（すべてのことに始まりはある。）があります。また、「beginning」と「ending」の両方を含む諺として、「A good beginning makes a good ending.」（良い始まりは良い終わりを作る。）があります。

740

The best is behind.

日本語訳

最高のものは裏にある。

日本の諺としては対応したものは見当たりません。

「behind」は「後ろに・遅れて」という意味が基本ですが、「…の裏に・陰に隠れて」という意味もあり、ここではこの意味で使われています。

卑近な例としては、日本の造り酒屋には広く市販している商品以外に、店の直売だけの特別な商品があるものです。

本当に良いものは、大量生産が難しいことが多く、結果として、「behind」に存在するという事です。

741

Let well alone.

日本語訳

良いことをそのままにしておけ。

日本の諺としては、「藪を突いて蛇を出すな。」に対応しています。

要するに、現状を「well」と認識していて、「余計なことをするな。」という意味で使われます。

日常会話では、「Let me alone!」（私の

ことはほっといて！) や「Let her alone.」(彼女のことはほっておけ。)のように使われます。

変化形として、「Let well enough alone.」や「Leave well alone.」があります。

742

The good die young.

日本語訳

良い人は若くして死ぬ。

諺ではありませんが、日本にも「善人は早死にする。」という慣用句はあると思います。

この理由を説明している別の諺「Whom the gods love die young.」（神が愛している者は若くして死ぬ。）があります。また、同じ構造の「Beauties die young.」（美人は若くして死ぬ。）があり、日本の諺としては、「美人薄命」が対応しています。

743

Four eyes see more than two.

日本語訳

4つの目は2つよりも見る。

日本の諺としては、「三人寄れば文殊の知恵」に通じるものがありますが、こ

ここでは知恵が出るということではなく、より良く観察が出来たり、文字校正において見逃しが少なかったり、かなり具体的なメリットのことです。

「文殊の知恵」により近い諺として「Two heads are better than one.」（2つの頭は1つより良い。）が使われています。

744

Don't miss the bus.

日本語訳

バスに乗りそこなうな。

日本の慣用句にもなっていますが、「バスに乗り遅れるな。」の元の表現と言えます。

この言葉は、1920年代の世界恐慌の時代に、世界中で様々な経済政策が行われた時代に生れた言葉です。

バスが乗り合い自動車ということで、緊急時に、主体性なく、時流に便乗する際のスローガンでした。

現在でも、世界経済や業界内の競争戦略などに関して使われます。

745

Waste makes want.

日本語訳

無駄が不足を作る。

日本の諺としては対応するものが見当たりませんが、大変わかりやすい論理と言えます。

出典は 14 世紀のイギリスの詩人ジェフリー・チョーサー (Geoffrey Chaucer) の「カンタベリー物語」の一節とされています。

因みにこの前段として、「Haste makes waste.」(急ぎが無駄を作る。)があり、後段には「夫婦げんかになる。」と続きます。

746

Fancy may kill or cure.

日本語訳

空想は殺しも癒しもする。

日本の諺としては、「病は気から」が対応すると言われていています。

「fancy」という言葉は「気まぐれな」や「恋愛感情」のような意味もありますが、ここでは「想像・空想」の意味で使われています。

同じ意味の別の諺として、「Your mind controls your body.」（あなたの心があなたの体を制御する。）や「Illness starts in the mind.」（病気は心の中から始まる。）があります。

747

Cracked pots last longest.

日本語訳

ヒビの入ったポットが一番長持ちする。

日本の諺としては、「一病息災」が対応しています。

ただし、「一病息災」は、「軽い病気のある人の方が健康である。」というように、人に関しての諺であるのに対し、標記の諺は人だけではなく、物の場合にも使われます。

同じ意味の別の諺として、「A creaking door hangs longest.」（ガタガタしているドアが一番長持ちする。）があります。

748

May the Force be with you.

日本語訳

フォースがあなたと共にあらんことを。

標記は諺ではなく、人気映画シリーズ「スター・ウォーズ (The Star Wars)」に頻繁に登場する言葉です。

元は、キリスト教における「May God be with you.」(神のご加護がありますように。) ですが、映画シリーズにおける「超能力」の名称「the Force」が「God」の代わりに用いられています。

因みに、語呂合わせで、「May 4th」(5月4日) が「スター・ウォーズの日」とされています。

749

Sleep brings up a child well.

日本語訳

睡眠は子どもを良く育てる。

日本の諺としては、「寝る子は育つ。」
が対応しています。

洋の東西を問わず、良く寝ている子どもは成長が速いことを、経験則として知っていたということです。

医学的に言えば、生物は睡眠中に組織が作られ、特に骨が生育するわけです。

「sleep」を含む諺として、「Let

sleeping dogs lie」(寝ている犬を横にしておこう。=寝た子を起こすな。)があります。

750

Meat and cloth makes the man.

日本語訳

肉と衣服が男を作る。

日本の諺としては、「衣食足りて礼節を知る。」が対応しています。

一般的な諺としては、「Clothes make the man.」ですが、これは「馬子にも衣装。」とされています。

しかし、標記の諺を知ると、「the man」

が単なる見てくれではないことがわかります。服装が変わる前に、中身が変わっていると考えるべきかも知れません。

因みに、古くは「meat」が「食料全般」を意味していました。

751

I shall return.

日本語訳

私は戻ってくるだろう。

この言葉は、アメリカ軍の総司令官ダグラス・マッカーサー（Douglas MacArthur）が、第二次世界大戦におい

て、日本軍に追われて、フィリピンを去る際のものです。

日常的に使われる言葉ですが、本人が大地主であったために、「We」ではなく、思わず「I」としてしまったと言われていいます。

文法的には、未来に起こる可能性が高い「shall」が使われていることによって、強い意志を表すと解釈されています。

752

A penny for your thoughts.

日本語訳：

あなたの考えは価値が低い。

日本の諺としては、「下手な考え休むに似たり。」が対応しています。

しかし、状況や文脈によっては意味や意図が大きく異なります。

文字通りの解釈としては、「相手の考えが評価できない」という意味ですが、相手が落ち込んでいる場合は、「そんなに悪く考えるなよ。」というニュアンスになります。

蛇足ですが、「ア ペニー」ではなく、「エイ ペニー」と発音すべき表現ではないでしょうか。

Like attracts like.

日本語訳

似たものは似たものを引き付ける。

日本の諺としては、「類は友を呼ぶ」が対応しています。

「like」は「～が好き・～を好む」という動詞、「～に似て・～同様に」という前置詞として知られていますが、ここでは、「似た人・似た物」という名詞で使われています。

因みに、「類は友を呼ぶ」に対応する有名な諺として、「Birds of a feather flock together.」（同じ羽の鳥は集まる。）があります。

754

Belly has no ears.

日本語訳

腹は耳を持たない。

日本の諺としては、「腹が減っては戦はできない。」、あるいは意識すると、「衣食足りて礼節を知る。」に対応しています。

変化形として、「The belly has no ears.」があります。

因みに、「腹が減っては～」には「An empty sack cannot stand upright.」

(空の入れ物は真っすぐ立たない。)

「衣食足りて～」には「Meat and cloth makes the man.」（食と服装が男を作る。）が対応しています。

755

Ignorance is bliss.

日本語訳

無知は至福である。

日本の諺としては、「知らぬが仏」が対応しています。

「bliss」は「無上の喜び・至福」という意味になります。

まず、「知らぬが仏」ですが、「仏」は「心穏やかな存在」を意味し、悪い知

らせを受けていなければ、「仏」でいられるということです。

別の諺として、「What you don't know won't hurt you.」（あなたが知らないことはあなたを傷つけないだろう。）があります。

756

No mill, no meal.

日本語訳

ミルなし、食事なし。

日本の諺としては、「働かざる者食うべからず。」が対応しています。

「mill」は、粉にする器具であり、古

くは「水車」や「風車」を意味しました。その後、「工場」の意味にまで広がりました。

標記は、「工場で働かなければ、食事は与えられない。」ということです。

同じ意味の別の諺として、「If you won't work, you shan't eat.」（あなたが働かないとしたら、食べられないだろう。）があります。

757

The child is the father of the man.

日本語訳

子どもは男の父親である。

日本の諺としては、「三つ子の魂百まで」が対応しています。

文献によっては、「the father」ではなく、「father」となっているものも見受けられます。

要は、将来どのような大人になるかは、幼い頃の性格や言動を見ればわかるというこ r です。

由来は、19 世紀初頭のイギリスの詩人ウィリアム・ワーズワースの詩からとされています。

758

Least said soonest mended.

日本語訳

最小に話されると、最速に修正される。

日本の諺としては、「口は災いのもと」が意味的には対応しています。

理屈としては、発言が少なければ、失言したとしても、修正の可能性が少なくて済むというものです。

「Speech is silver, silence is golden.」（弁舌は銀、沈黙は金）という諺が示すように、発言しないことが失言のリスクを減らすことになります。変化形として、「The least said, soonest mended.」があります。

759

Pennies from heaven.

日本語訳

天からのコイン。

日本の諺としては、「棚から牡丹餅」が対応しています。

まず、「棚から牡丹餅」の状況ですが、上を向いて横になっていた人の口に、棚にあった牡丹餅が落ちてきて、美味しく食べてしまったということです。

要するに、予期してなかった幸運が、努力なしに訪れることですが、法外に大きな幸運というわけではありません。

因みに、「windfall」という一語で、「棚から牡丹餅」と同様の意味になります。

760

The tongue stings.

日本語訳

舌は刺す。

日本の慣用句としては、「耳が痛い」や「口撃」に通じるものがあります。

舌は言葉を発する器官として、言葉の攻撃や暴力に関する表現に使われます。

よく似た意味の諺として、「The tongue is not steel yet it cuts.」（舌は鋼鉄ではないが切る。）があります。

因みに、「Sting」はイギリスの有名なミュージシャンであり、「The Sting」

は有名なアメリカ映画のタイトルとして知られています。

761

Fools have fortune.

日本語訳

愚かな人は幸運を持っている。

日本の諺としては、対応するものが見当たりません。

愚かに見える人の中には、羨ましくなるような成功を収めている人がいて、つい、「Fortune favors fools.」と言いたくなります。

次の2つの諺を考え合わせると、合点がいけます。

「Fools rush in where angels fear to tread.」（愚者は天使が恐れて踏み入れないところへ飛び込む。）と「Fortune favors the brave.」（幸運は勇者を好む。）です。

762

To add insult to injury.

日本語訳

ケガに侮辱を加えること。

日本の諺としては、「泣きっ面に蜂」が対応しています。

この「泣きっ面に蜂」は、泣きはらしてひどい顔になっている上に、蜂にさされてさらにひどい顔になった、という状況です。

標記の諺は、古代ローマ時代、「自分の頭にとまったハエを叩こうとして、逃げられて自分の頭だけを叩いて恥をかいた。」という物語に由来すると言われていています。

因みに、「insult」は「侮辱」という意味です。

763

Take a chance.

日本語訳

チャンスを取れ。

日本の諺としては、「当たって砕けろ。」に近いと思われます。

「All or nothing」や「Go for broke.」が「当たって砕けろ。」に最も近く、標記はより成功の可能性が高い状況と思われます。

より具体的な会話における表現として、

「Take your chance.」が使われます。

因みに、カタカナ英語の「チャンス」は、ほとんどの場合、「opportunity」と訳した方が良いでしょう。

764

What one likes, one will do well.

日本語訳

その人が好きなこと、その人は上手くやるだろう。

日本の諺としては、「好きこそものの上手なれ。」が対応しています。

おそらく、好きなことであれば、長時間を費やし、集中力を傾けるので、詳しくもなり技術的にも向上するということでしょう。

論語に、「之を知る者は、之を好む者に如かず」とありますが、洋の東西を問わず、このことは経験則を言葉にしたものであり、言わば、「詠み人知らず」の諺と思われる。

No man is born wise.

日本語訳

誰も賢く生まれない。

日本の諺としては、「氏より育ち」が部分的には対応するでしょうが、ピッタリなものは見当たりません。

「wise」の言葉のニュアンスとして、記憶力や思考速度というよりも、「経験による知恵や判断力」という感じがします。

「wise」と「fool」を対照させた諺として、「Penny wise and pound foolish.」(小銭に賢くて、大金には愚か)などがあります。

766

Riches have wings.

日本語訳

富は翼を持っている。

日本の諺でも、「金は天下の回りもの」という言葉があり、お金は留まらないものと考えられています。

標記の諺は、「金持ちは世界中どこへでも旅行できる。」と理解してはいけません。

別の諺、「A fool and his money are soon parted.」（愚かな人と彼のお金は

すぐに離れる。)に通じるものがありますね。

視点を変えれば、「奢れる者は久しからず。」という理解も可能です。

767

Laugh and grow fat.

日本語訳

笑いそして太りなさい。

日本の諺としては、「笑う門には福来る。」が対応します。

上記の日本語訳では、直訳として「grow fat」を太ると訳しましたが、

太るのは体ではなく、富が太るということであり、「富を増やす」という意味になります。

「笑う門」に即した諺としては、「Good fortune and happiness will come to the home of those who smile.」（良い運と幸せは笑顔でいる家庭に来る。）があります。

768

To lose is to win.

日本語訳

負けることが勝つことである。

日本の諺としては、「負けるが勝ち」が対応しています。

「負けるが勝ち」は江戸のいろはがるたの「ま」の札で登場しましたが、由来は定かではありません。

小さな勝負では、勝ちを譲る方がその後得であるということですが、考えてみると、禅問答のようでもあり、哲学的な表現と言えます。

動名詞に代えた、「Losing is winning.」でも良いようです。

769

Anybody can make a mistake.

日本語訳

誰でも間違いをすることができる。

日本の諺としては、「猿も木から落ちる。」や「河童の川流れ」が対応しています。

日本語訳では、「can」を杓子定規に「できる」と訳しましたが、「可能性がある」という訳が正しいようです。

日本では、「弘法も筆の誤り」、英語では、「Even Homer sometimes nods.」（ホメロスですえ、時にはうっかりミスをする。）という含蓄のある諺がありますが、標記の諺は極めて平易な文と言えます。

770

First think and then speak.

日本語訳

最初に考えてから話せ。

日本の慣用句としては、「考えてから話せ。」があります。

この状況は極めて日常的に起こりうることであり、実際に経験したことがある人も少なくないと思います。

要するに、考えが纏まらないうちに話し始めてしまい、論理が破綻してしまうということです。

因みに、「think」と「speak」を使った別の諺として、「Think today speak tomorrow.」（今日考え、明日話せ。）があります。

771

Better have meat than fine clothes.

日本語訳

美しい服よりも肉が良い。

日本の諺としては、「花より団子」が対応しています。

標記の諺中の「meat」は、現在では「肉」としか理解されていませんが、古い時代、聖書などでは、「食べ物全般」を意味していました。

因みに、「花より団子」には「Dumplings rather than flowers.」と

いう直訳のような諺が存在しています。
この「ダンプリング」は欧米の料理に
おける団子ですが、日本や中国のもの
に対してもこの言葉が使われます。

772

Turn about is fair play.

日本語訳

仕返しは公平である。

日本の諺としては、「目には目を」が対
応しています。

標記では、「Turn about」と分れていま
すが、「turnabout」と繋がった言葉が

あり、「仕返し・方向転換」という意味です。

因みに、遊園地にある「回転木馬」という意味もあります。

「An eye for an eye.」（目には目を）も同様ですが、対等の仕返しの奨励であって、暗に「倍返し」を禁じています。

773

Listeners hear no good of themselves.

日本語訳

聞き手は彼らの良い話を聞かない。

日本の諺にはピッタリなものは見当た

りませんが、経験則としては頷けるものがあります。

標記の諺の状況は、意図的か偶然かは兎も角、立ち聞きをされていて、自分の悪口を聞くというものです。

「Eavesdroppers」を使った、「Eavesdroppers never hear any good of themselves.」という難易度の高い諺もあります。

因みに、「eavesdrop」は元々は「軒先からの雨だれ」の意味でした。

774

Better to have than wish.

日本語訳

持ちたいと願うより現に持っている方

が良い。

日本の諺としては、「足るを知る」に近いでしょうか。ただし、「A contented mind is a perpetual feast.」（満足は、永久のご馳走である。）の方がより対応しています。

説明するまでもなく、「hope」に対して「wish」は実現性が低いことを願う感があります。

英語の別の諺として、「One bird in the hands is worth two in the bush.」（手の中の1羽の鳥は藪の中の2羽に値する。）があります。

775

All or nothing.

日本語訳

すべてか無か。

文脈によりますが、日本の諺としては、「一か八か」や「当たって砕けろ」が対応しています。

要するに、結果が両極のどちらかになるということです。

同様の諺として、「Go for broke.」や「Take a chance.」がありますが、前者が「当たって砕けろ」そのものであり、後者が「チャンスを掴め」であり、成功する可能性に関しては振れ幅があります。

776

Trade is the mother of money.

日本語訳

仕事は金の母である。

日本の諺としては、「働かざる者食うべからず。」が対応しているかも知れません。

「trade」は「貿易・商売・職業」と意味の広い言葉ですが、ここでは、「職業」ということになります。

「trade」を含む別の諺として、

「A Jack of all trades but a master

of none.」(何でも屋のジャックは何のマスターでもない。)や「Two of a trade never agree.」(商売がたきは意見が合わない。)があります。

777

Times change.

日本語訳

時代は変化する。

日本の諺としては、「人は世に連れ世は人に連れ」が対応しています。

標記の諺には続きがあって、「Times change and we with them.」となり、順

番は逆ですが、日本の諺とほぼ同じ意味になります。

時の不可逆性を説く諺は多く、「Time and tide wait for no man.」（時と潮の流れは人を待たない。）や「There are no birds in last year's nest.」（去年の巣には鳥はいない。）などがあります。

778

The poor have no leisure.

日本語訳

貧しい人は余暇を持たない。

日本の諺としては、「貧乏光無し」がま

さに対応しています。

要は、貧乏な人は生活に追われて、余暇を楽しむ時間がないという意味ですが、多くは冗談として使われます。

変化形として、「A poor man has no time for leisure.」、「Poor men have no leisure.」があります。

また、隣接した諺として、「No rest for the wicked」（悪人には休息はない）」があります。

779

No real devil in the world.

日本語訳

世界には本当の悪魔はいない。

日本の諺としては、「渡る世間に鬼はなし。」に対応します。

そもそも悪魔とは、キリスト教の世界において、いわゆる神の敵役として想定され、人々を墮落させ、不幸をもたらす存在です。

確かに、悪人たちは存在しますが、善意の人々も少なくないということです。説明するまでもありませんが、標記の文は、「There is no real devil in the world.」の冒頭部分が省略されたものです。

780

Time wears away love.

日本語訳

時は愛を摩滅する。

日本の諺としては、「惚れたはれたは当座のうち。」という古いものがあります。恋は一時の迷い、あるいは病気とする考えがあり、標記の諺も同じ流れのものと言えます。

恋に限らず、時は変化をもたらすという意味から考えると、「Time is a great healer.」（時は偉大な治癒者である。）も通じるものがあります。

因みに、「wear away」は「摩滅させる・消失させる」という意味になります。

す。

781

There' s always a next time.

日本語訳

いつも次の時がある。

日本の慣用句としては、「次がある」で
しょうか。

決定的な機会を逃した場合は通用しま
せんが、ちょっとしたチャンスを逃し
た人にはこの表現は慰めになります。

しかし、人生においては瞬間的な判断
力や決断力が必要とされることもあり
ます。

時の神には前髪しかないと言われ、「Take time by a forelock.」(前髪で時を掴め。)という諺があり、普段から準備しておきたいものです。

782

No pleasure without pain.

日本語訳

痛みのない楽しみはない。

日本の諺としては、「苦は楽の種」が対応しています。

標記の諺より良く知られている諺として、「No gain without pain.」や「No pain no gain.」があり、韻を踏んでい

る点では一日の長 f があります。
ただし、「gain」と「pleasure」では少しニュアンスの違いがあります。前者は、物理的なメリットの感があり、後者はどちらかと言うと精神的な報酬という感があります。

783

There is safety in numbers.

日本語訳

多数の中に安全がある。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりませんが、「寄らば大樹の陰」のニュアンスはあるかも知れません。

要は、多くの仲間といれば、目立つことにより何かのターゲットにされるリスクが低いということとです。

「safety in numbers」だけを取り出して、様々な使い方が可能なようです。

諺と言うよりも「標語」ですが、

「safety」を使った最も有名な表現として「Safety first!」((安全第一)があります。

784

No cure for a fool.

日本号訳

馬鹿に治療法はない。

日本の諺としては、「馬鹿につける薬はない。」が対応しています。

因みに、これは方程式のようなものであり、「No cure for」に続く言葉として、「love」や「death」などが考えられます。

「fool」を含む最も有名な諺として、「A fool and his money are soon parted.」（馬鹿と彼のお金はすぐに離れる。）があります。

標記を「文」にすると「There's no cure for a fool」になります。

785

No peace for the wicked.

日本語訳

悪人には平安はない。

日本の諺としてはピッタリなものは見当たりません。むしろ、「悪い奴ほどよく眠る。」という逆の諺があります。

「peace」の代わりに「rest」が使われている「No rest for the wicked.」という諺があり、こちらの方が知られています。

「peace」を使った「If you want peace, prepare for war.」という、賛成したくないが現実的な諺があります。

The style is the man.

日本語訳

文体は人である。

日本の諺としては、「文は人なり。」が対応しています。

まず、「style」が「文体」という意味であることを知らないと標記の諺は理解できません。

要するに、その人の文章は経験や考え方がにじみ出て、人柄を伝えてしまうということです。

由来としては、18 世紀のフランスの博物学者ビュフォンのアカデミーフランセーズでの入会演説での言葉とされています。

787

The rod breaks no bones.

日本語訳

鞭は骨を折らない。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

基本的には、鞭は家畜などの調教に使われ、犯罪者などへの仕置きや子どもの躰にも使われてきました。

要は、こん棒ではなく鞭であれば、罰として受けたとしても、骨までは折れないということです。

少し比喩的は諺として、「Hard words break no bones.」（厳しい言葉も骨は折らない。）があります。

788

The pot calls kettle black.

日本語訳

ポットがヤカンを黒いと呼ぶ。

日本の諺としては、どちらも大した違いはないという意味の「五十歩百歩」が対応しています。

標記の諺は、「pot」と「kettle」が擬人化されていて、どちらも使われてい

るうちにススで黒くなっていて大した
違いがないのに、前者が後者を馬鹿に
している点が愚かであるということ
を表現しています。

要は、低レベルの罵倒合戦はくだら
ないということです。

789

The older, the wiser.

日本語訳

より年配者はより賢い。

日本の諺としては、「亀の甲より年の功」
が対応しています。

文法的には、「the」を付けた比較級を二つ並べて、「～なほど、より～である」というものであり、日常会話で頻繁に登場します。

同じ意味になる表現として、「Older and wiser.」、近い意味になる表現として、「Experience is the best teacher.」

（経験は最善の教師である。）、「Years know more than books.」（年月は本より知っている。）などがあります。

790

Better leave it unsaid.

日本語訳

それは言わないで置いた方がより良い。

日本の諺としては、「言わずが花」が対応しています。

余命告知などとは違いますが、すべて言わずに余韻を残しておくことがあってもいいのかも知れません。

同じ意味の別の諺として、「Things are often better left unsaid.」（物事はしばしば言わずに残しておくことがより良い。）や「Some things are better left unsaid.」（あることは言わずに残しておくことがより良い。）があります。

791

The last straw.

日本語訳
最後の藁。

日本の慣用句としては、「最後の一撃」
でしょうか。

標記は、有名な哲学的な諺「It' s the
last straw that breaks the camel' s
back.」（ラクダの背骨を壊すのは最後
の1 藁である。）の一部を切り出したも
のです。

上記は、物理学的に言えば、「臨界点」
のことであり、極めてわずかな負荷の
追加が、決定的な結果をもたらすこと
を示しています。

792

The greater hides the less.

日本語訳

より大きい者はより小さい者を隠す。

日本の諺としては、「大は小を兼ねる。」
が対応しています。

「hide」は上記の日本語訳のように、
「隠す」と理解されていますが、「包んで
守る」というニュアンスもあり、こ
こではこの意味で使われています。

同じ意味の諺として、「The greater
embraces the less.」（より大きい者が
より小さいものを包含する。）や「The
greater serves for the lesser.」

（より大きい物はより小さい物に奉仕
する。）があります。

793

The future is all darkness.

日本語訳

未来はすべて闇である。

日本の諺としては、「一寸先は闇」が対応しています。

ただし、「一寸先は闇」には対訳のような「An inch ahead is darkness.」がより対応しています。

ほぼ同じ意味になる諺はいくつかありますが、「The future」で始まり、シャレた諺として、「The future is a closed book」（未来は閉じられた本で

ある。) があります。この場合は、暗い未来とは限りません。

794

The enemy is at the gate.

日本語訳

敵は門にいる。

日本の諺としては対応するものが見当たりません。

説明するまでもなく、「at the gate」は比喩であり、「Christmas is just around the corner.」(クリスマスがすぐそこまで来ている。)同様、「すぐ近く」という意味です。

因みに、第二次世界大戦のスターリンググラードの戦いを描いた「Enemy at the Gates」というタイトルの映画が知られているという事です。

795

The end makes all equal.

日本語訳

終わりはすべてを平等にする。

日本の諺としては見当たりませんが、「死は誰にでも平等に訪れる。」という慣用句はよく耳にします。

上記の諺において、「The end」は「一般的な終了」ではなく、「命の終了」の

意味です。

同じ意味の諺として、「Death is the great leveler.」（死は偉大な平等者である。）があります。

「The end」を「結果」と訳す諺として、「The end justified the means.」（結果は手段を正当化する。）があります。

796

The doctor after death.

日本語訳

死んだ後の医者。

日本の諺としては、「後の祭り」が対応しています。

しかし、標記の諺は状況が理解できるのに対し、日本の諺の方が、何故「手遅れ」を意味するのか不明と言えます。同じ意味を表す別の諺として、「It is too late to shut the stable door after the horse has bolted.」（馬が飛び出た後で厩のドアを閉めても遅すぎる。）が知られています。要するに、上記の冒頭の「It is too late.」で事足りるということです。

797

The dependent is timid.

日本語訳

依存している者は気が小さい。

日本の諺としては、「居候、三杯目にはそっと出し。」、あるいは、「居候の三杯目」が対応しています。まず、日本の諺の状況ですが、食事の際、居候は三杯目のご飯のお替りを、遠慮しながら、お願いするということです。さらに弱い立場の者に関する諺として、「Beggars must not be choosers.」（乞食は選ぶ者であってはならない。）があります。

798

Tastes differ.

日本語訳

好みは違う。

日本の諺としては、「蓼食う虫も好き好き」が対応しています。

この「蓼」とは少し高原付近の野草ですが、苦いので人は食べませんが、主食にしている虫がいるということです。

同じ意味の諺は、「Every man to his taste.」（すべての男は彼の好みがある）

や「There is no accounting for taste.」（味の好みは説明がつかない。）

などがありますが、標記は最も短い表現と言えます。

799

The child is a godsend.

日本語訳

子は神様からの授かりもの。

日本の諺としては。「子は宝」、「子に過ぎたる宝なし。」が対応しています。

洋の東西を問わず、また、信仰の違いも関係なく、自分たちの遺伝子を後世に引き継ぐ「子」は大切にされてきました。

「baby」を使った「The baby is a godsend.」も使われています。

因みに、「The child」を含む別の諺として、「The child is the father of the man.」（三つ子の魂百まで）や

「The child is the bond of matrimony.」（子は夫婦関係の接着剤である。）があります。

800

The bait hides the hook.

日本語訳

エサは釣り針を隠す。

日本の諺としては、「うまい話には裏がある。」が対応しています。

釣り針を使って魚を漁る方法がどこでいつ始まったかは文化人類学に任せますが、少なくともここ二千年以前にど

こでも行われてきたと思います。

おそらく、魚を騙していることについては、少なからず罪悪感があったのではないのでしょうか。

因みに、現在では「bait」には「誘惑」という意味が加わっています。